

▼九州

「ちっちゃいこえ」の紙芝居

林 欣子(TNC)

コロナ禍の中、九州民放クラブ福岡では、二つの同好会が活動しています。その一つ朗読奉仕グループは月2回の勉強会を1回にし、全ての活動はリモートで行いました。

録音・校正・編集など、パソコンを駆使して送受信。お陰で否応なしの脳トレです。令和4年12月15日(水)の勉強会では、年末特別企画として紙芝居をしました。グループに十数年来在籍の堺康男さん(福岡市シニアボランティア業務)が本格的な紙芝居セットを持参。演し物は、アメリカ人のアーサー・ビナード作「ちっちゃいこえ」。黒い猫が語り手で、昭和20年8月6日のヒロシマが、丸木俊(まるき・とし)、丸木位里(いり)さんの「原爆の図」で展開されます。

ビナードさんは30数年前に来日して広島に住み、「原爆の図」をテーマに7年がかりで作ったという「ちっちゃいこえ」。

この「こえ」は細胞の声。生き

ている生命の響きに耳を傾けよう、と呼びかけます。

細胞を壊す物は空から降ってくる。助かっても身体に潜り込んで、ジリジリジリジリ見る見る壊されて行く。

鳩はバクダンを落とさない  
猫もバクダンを落とさない  
生き物はみんな落とさない  
人間だけだな

バクダン作って落とすのは

5年前、私たちはアーサー・ビナード著「知らなかったばくらの戦争」を9時間のデイズー図書(※)にして、九州・沖縄の各視覚特別支援学校に寄贈しました。この「ちっちゃいこえ」もCDにして贈ろうと思っています。

※デイズー図書：音声と一緒に文字や画像が表示されるデジタル図書



紙芝居に見入る会員達

鹿児島理事會を3年ぶりに開催

〓新理事長を選出

事務局長 萩原 博(KTS)九州民放クラブ鹿児島は、平成30年に設立された若いクラブだが、コロナ禍のためクラブとしての総会などはこの2年間開催できず、書面決議などで凌がざるを得ない状況だった。

そうした中、コロナ禍での制約が徐々に緩くなりつつあることから、2月4日、理事9名と会員1名が出席して3年ぶりの理事会開催となった。主な議題は次の通り。

- 議案1・理事長の退任、及び新理事長選任
- 議案2・令和5年度の総会
- 議案3・入会希望者の承認

議案1は、現理事長の佐伯孝治氏が体調不良のため退任の申し出があったためで、ご本人からの後任推薦もあり、KKB出身の三木武幸(みき たけゆき)氏が全会一致で新理事長に選任された。また、今村孝夫会長が務めている代議員についても、三木新理事長が兼務することが承認された。

議案2は、会員が出席しての通常の総会を開催するかどうか

を協議したところ、開催を希望する意見が多数を占めたため、時期を6月上旬として開催の方向で調整することが決議された。

議案3は、3名の放送局OBの入会希望があり、全会一致で承認。会員数は34名となった。

続いて理事会では、現在、協議されている日本民放クラブの会員資格に関する規約改正について、事務局長の萩原より規約改定委員会の中間報告などの説明があり、各地区の民放クラブの回答状況が報告された。

理事会は、以上の議決をもって無事終了した。



3年ぶりの理事会